令和７年度日本大学理工学部における教育活動に関する
外部評価実施報告について

理工学部内部質保証推進委員会
理工学部自己点検・評価委員会

１　実施目的

卒業・修了の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー),教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー),入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)の３つのポリシー及びこれらに対する取組の適切性・妥当性等に対する外部評価を行い,本学部における教育活動のＰＤＣＡサイクルを確立し,教育の質保証及び向上に資することを目的とする。

２　外部評価者

委員長　　岸井　隆幸（日本大学名誉教授）
委　員　　高橋　伸行（船橋市教育委員会生涯学習部長）
委　員　　加藤　史子（WAmazing 株式会社代表取締役ＣＥＯ）
委　員　　中島　佑実（横浜市立東高等学校教諭）
委　員　　飯田　　眞（飯田エンジニアリング社）

３　外部評価項目及び方法

①　評価項目【理工学部及び大学院理工学研究科】

（１）教育・学習〈ディプロマ･ポリシー及びカリキュラム・ポリシー〉
（２）学生の受け入れ〈アドミッション・ポリシー〉
（３）学生支援
（４）社会連携・社会貢献

②　評価方法

（１）「令和６年度受審の大学認証評価結果への対応状況」,「令和６年度外部評価結果を受けての対応状況」及び「日本大学理工学部数理･データサイエンスＡＩ教育プログラム(理工学部ＰＧ)点検・評価報告書」を作成し,外部評価者へ提出する。

（２)外部評価者による評価は上述（１）で提出した内容をもとにして行い,協議会を開催した上で評価を行う。

（３）外部評価者は,評価項目ごとに評価の結果,優れている点や改善を必要とする点等を評価結果としてまとめるとともに,外部評価項目の取組評価を４段階で評価する。
（Ａ：十分出来ている，Ｂ：概ね出来ている，Ｃ：一部改善が必要，Ｄ：出来ていない）

４　外部評価実施スケジュール

令和７年７月　　外部評価実施方法を決定
令和７年１１月　外部評価者へ本学部の自己点検・評価結果をまとめた資料を送付
令和７年１２月　本学部駿河台校舎にて協議会を開催の上，外部評価者から評価結果提出

5　外部評価結果及び外部評価協議会の議事録について

別紙「外部評価結果」及び「外部評価協議会議事録」のとおり

6　添付書類

①令和７年度日本大学理工学部における教育活動に関する外部評価結果

②令和７年度日本大学理工学部における教育活動に関する外部評価協議会議事録

③令和６年度日本大学理工学部における教育活動に関する外部評価結果を受けての対応状況

以　　上

資料１

令和７年度日本大学理工学部における
教育活動に関する外部評価　評価結果

記　載　者　岸井隆幸，高橋伸行，加藤史子，中島佑実，飯田眞

［基準４］　教育・学習

【評価項目】

① 達成すべき学習成果を明確にし，教育・学習の基本的な在り方を示していること。
② 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し，教育課程を体系的に編成していること。
③ 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態，方法をとっていること。また，学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。
④ 成績評価，単位認定及び学位授与を適切に行っていること。
⑤ 卒業の認定に関する方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。
⑥ 教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
・多様な背景を持つ学生が入学する中で，英語・数学・物理・化学に不安や苦手意識を持っている学生等をサポートするパワーアップセンターを中心とした手厚い学習支援体制が構築されていることは，教育の質の維持に大きく寄与している。特に，入学時に実施する学力調査結果を用いて，同センターの利用等を必要に応じて学生へ促していることは大学の授業にスムーズに入れる良い取組である。 ・１年次の基礎科目から４年次の専門科目に至るまで，専門性を段階的に深める体系的なカリキュラムが編成されていることは評価する。 ・教育活動等の改善について，学生アンケートの結果を反映させる体制が整うとともに，本外部評価結果に対しては改善・向上に向けた報告書を作成して意見を計画的に取り入れる姿勢等，常に高いレベルで教育環境の維持・向上に向けて真摯に取り組んでいる。 ・大学院においては，生成ＡＩの急速な普及等の社会情勢の変化に対応し，倫理教育やアントレプレナーシップを育む教育に取り組んでいるが，学部１年生などの早期から任意参加できる環境等を含め，一層推進することが期待される。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
・語学教育においては，１年次のみならず高年次でも継続して実践的な英会話を学べる仕組みを構築し，卒業後海外でも活躍できるよう強化することを望む。 ・パワーアップセンターにおける学習支援を受けずとも授業を受けられる学力を身につけた学生を入学させることが必要な反面，大学としては入学試験のみでは把握できない部分もあり，それによって大学の授業の質が低下することはあってはならないため，より充実したセンターとなるよう体制の強化を望む。なお，現状の取組が単なる予備校のような反復学習に留まっていないか不断に検証を行い，受講した学生のレベルアップ効果を測定し，内容の妥当性を高めていくことが求められる。 ・ＡＩの時代では，学生には好奇心・興味・意思等を持たせるとともに，全体を知り，社会との連関性や技術間の繋がりを知る等幅広い視野を持つ素養の育成が重要である。そこで，授業は対話型の形式でより学生が主体的な姿勢となる仕組みを整え，それらの取組を通じて学生が専門性を深掘りす

る際のパートナーとしてＡＩを利活用し，社会で活躍できる「Ｔ型人材」となるように育成することが望まれる。

③本基準に対する評価，コメント		ABCD 評価(※)
Ａ：十分出来ている，Ｂ：概ね出来ている，Ｃ：一部改善が必要，Ｄ：出来ていない ※ABCD 評価は外部評価者５名から提出があった評価結果の平均値。		Ａ
コメント	・成績評価，単位認定及び学位授与については，一定の基準に基づき運用されているが，学生個々で異なる学習状況を適切に把握し，多面的に評価することは非常に難しいと感じる。大学に対する評価は，卒業生が社会の各分野でいかに貢献しているか等の成果を通じてなされるが，個々の学生に対する評価においては，教育者側と学生側の認識を共有し，評価基準の透明性を高め，その意識の隔たりを埋めていく取組が今後大切になってくる。	

［基準５］　学生の受け入れ

【評価項目】

① 入学者の受入れに関する方針に基づき，学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し，入学者選抜を公平，公正に実施していること。

② 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに，在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

③ 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
・入学者を確保するための施策として，学生生活が感じられる魅力的なオープンキャンパスを開催するとともに，ガイドブックやホームページ，多様なメディア等を用いた丁寧な学部の情報発信に加え，地方試験場の設置（学部）やオンライン口述試験（大学院）の導入等，受験生の利便性を考慮した受験機会の拡大に取り組んでいる。 ・大学院においては，学習意欲を掻き立てるパンフレット「社会人大学院への誘い」を作成する取組やリカレント教育・リスキリングの要請に応じた積極的な募集活動は時代のニーズを捉えた取組である。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
・理工学部で学ぶことの楽しさ，意義，就職実績（就職偏差値が高い），最新の研究設備等をさらに地域や高校生等に伝える機会を設けることにより，社会・地域貢献にもつながると考える。 ・文部科学省による「大学・高専機能強化支援事業」を受けて，文系大学の理系転換の傾向があり，理系の競争激化が進むので受入れ基盤を固める必要がある。 ・学生の成績にはばらつきがあり，成績が振るわない学生はミスマッチを起こしている可能性がある。ミスマッチを防ぐ策として，入学者選抜方法の見直し等の検討も必要である。 ・理工学分野におけるダイバーシティを推進するため，女子学生比率の向上に向けた具体的かつ持続可能な目標設定を加速させる必要がある。既存の施策の効果を測定した上で，女子学生に向けた教育環境整備等，実効性の高い施策を速やかに実行することが望まれる。 ・留学生の受入れに関しては，「留学生に求めるビジョン」を明確に示し，英語対応カリキュラムや生活支援の充実を図るなど，具体的な施策を講じる必要がある。 ・大学院博士後期課程については，新技術開発競争が激化・専門職技術者の不足等その将来性や重要性を体系的に発信し，定員充足に向けた広報活動をさらに強化する必要がある。特に，現状，社会人に対する入学案内情報は非常に少ないため，ホームページの案内だけではなく，大学院向け外部情報サイトで上位表示される等の工夫が必要。 ・大学院についてはリカレント教育・リスキリングへの関心の高まりに鑑みると，社会人の受け入れについてより積極的に検討すべきである。

<table>
<tr><th colspan="2">③本基準に対する評価，コメント</th><th>ABCD 評価(※)</th></tr>
<tr><td colspan="2">Ａ：十分出来ている，Ｂ：概ね出来ている，Ｃ：一部改善が必要，Ｄ：出来ていない
※ABCD 評価は外部評価者５名から提出があった評価結果の平均値。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>コメント</td><td colspan="2">・大学院博士後期課程における収容定員の在り方とその設定意義について，改めて学内での議論を深化させることが重要である。</td></tr>
</table>

［基準７］　学生支援

【評価項目】

① 学生支援に関する大学としての方針に基づき，学生支援の体制を整備し，適切に実施していること。

② 学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
・パワーアップセンターによるきめ細やかな学習フォロー体制や，Web 上から容易に予約可能な学生カウンセリング体制等，学生が安心して学業に専念できる環境が整っている。 ・多様な奨学金制度や，企業からの寄付金を活用した昼食費の補助等，学生に直接還元する手厚い支援は評価できる。 ・大学が直接学生寮を持っていることは親も安心で経済的にも助かる。今後は理工学部からアクセスが良い場所等に設置されることが期待される。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
・学生支援としては，学生カウンセリングや奨学金制度等多くの取組を実施しているが，学業と生活を自律的に管理できるよう生活面を含めて寄り添うカウンセリング機能の充実，寄付金等を積極的に受け入れることによる奨学金制度のさらなる拡充がより重要である。 ・施設面では，船橋校舎近隣等における学生寮の新設や，バリアフリー，ダイバーシティに対応した計画的な設備更新を推進し，全ての学生にとって安全で利便性の高いキャンパス環境整備を望む。 ・海外交換留学制度が活発に利用されていないため，海外でも活躍できる人材育成のために同制度のさらなるアピールを行い，海外で活躍できるより多くの学生の育成を望む。 ・「社会人学生」を増加させるには，社会人向けの支援をより積極的に進める仕組みの充実が望まれる。

③本基準に対する評価，コメント		ABCD 評価(※)
Ａ：十分出来ている，Ｂ：概ね出来ている，Ｃ：一部改善が必要，Ｄ：出来ていない ※ABCD 評価は外部評価者５名から提出があった評価結果の平均値。		Ａ
コメント	・特になし	

［基準９］　社会連携・社会貢献

【評価項目】

① 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき，社会連携・社会貢献に関する取組を実施していること。また，教育研究成果を適切に社会に還元していること。

② 社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
・地方自治体との包括連携協定等に基づく地域貢献や，子供たちの探究心を育む特別授業の展開等，理工学部の持つ教育研究資産を積極的に社会に還元している点は有意義な取組である。 ・学生が地域の行事へ参画し，高齢化する地域社会の担い手としてボランティア活動等を行うことは，実社会との接点を持つ貴重な経験となっている。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
・社会人大学院生の増加にもつながるような「実社会との連携」をさらに深化させる取組を期待する。 ・大学主導の取組だけでなく，学生の自発的なボランティア活動や街のイベントへの参加を促す仕組み作りの検討を望む。 ・セミナーの開催や技術面での社会貢献の高い「技術士」取得力など，理工学部の持つ専門性をメディアや広報誌を通じてより体系的かつ積極的にアピールし，学部のブランド力を一層高めていくことを期待する。 ・船橋校舎の広大なキャンパスを授業に支障のない範囲において，地域住民に開放することも検討を希望する。

③本基準に対する評価，コメント		ABCD 評価(※)
Ａ：十分出来ている，Ｂ：概ね出来ている，Ｃ：一部改善が必要，Ｄ：出来ていない ※ABCD 評価は外部評価者５名から提出があった評価結果の平均値。		Ａ
コメント	・理工学部が有する教育研究力の規模・専門性を踏まえると，社会貢献の取組をより組織的・体系的に展開する余地があると考えられる。今後は，地域連携や技術支援の成果を学内外へより積極的に発信し，理工学部のブランド力を高めることで，社会へ寄与していくことが期待される。	

資料２

令和７年度日本大学理工学部における教育活動に関する
外部評価協議会議事録（要旨）

１　開催日時　令和７年１２月３日（水）午後３時３０分～午後５時１５分

２　開催場所　駿河台校舎１０号館特別会議室

３　出 席 者

【外部評価者】

委　員　高橋　伸行（船橋市教育委員会生涯学習部長）
委　員　加藤　史子（WAmazing 株式会社代表取締役ＣＥＯ）
委　員　中島　佑実（横浜市立東高等学校教諭）
委　員　飯田　　眞（飯田エンジニアリング社）

【本学部】

轟　　朝幸（理工学部長・内部質保証推進委員会委員長）
藤井紫麻見（理工学部（駿河台校舎）次長）
居駒　知樹（理工学部（船橋校舎）次長）
宮里　直也（学務委員会委員長）
大月　　穣（大学院委員会委員長）
小嶋　芳行（学生生活委員会委員長）
渡部　政行（入学試験実行委員会委員長）
大沢　昌玄（自己点検・評価委員会委員長）
角田　憲良（事務局長）
後藤　英次（教務課長）
森　　大樹（学生課長）
牧野　宏司（庶務課長）
矢葺　未来（庶務課主任）

※外部評価者 岸井　隆幸（日本大学名誉教授）委員長は都合により協議会は欠席となったが，同日午前中に本学部の取り組みについて個別で説明を行い，質疑応答の上，意見を聴取した。本議事録には同内容についても記載を行っている。

４　内容

轟理工学部長より挨拶の後，大沢自己点検・評価委員会委員長から今回評価いただく項目や意見をいただきたい観点等の説明を行い，公益財団法人大学基準協会が定める大学基準の「基準４　教育・学習」，「基準５　学生の受け入れ」，「基準７　学生支援」及び「基準９　社会連携・社会貢献」の本学部の現況説明を行った。

【説明資料】

（１）令和６年度受審の大学評価（認証評価）結果への対応状況
（２）令和６年度外部評価結果（理工学部・理工学研究科）への対応状況
（３）理工学部数理･データサイエンス･ＡＩ教育プログラム（理工学部ＰＧ）取組状況
（４）カリキュラム改定検討状況

＜各項目に対する「外部評価者から意見・要望事項」及び「本学部からの回答」＞

【全体】
＜外部評価者から意見・要望事項＞
・令和６年度外部評価結果への対応状況は，多くの項目について対応・検討が進んでいることが確認をすることができた。今後も対応・検討を引き続き行い，より充実した取り組みとなることが期待される。
＜本学部からの回答＞
・本学部では外部評価結果にて頂いた意見・要望事項について，内部質保証推進委員会にて各部署の対応状況を確認し，継続して改善・向上に取り組んでいる。本対応状況については本協議会にて報告後，ホームページにて公開予定である。

【教育・学習】
＜外部評価者から意見・要望事項＞
・１年次の教養科目は「高等学校で学んだ内容の復習」に近いところもあり，学生は高等学校とは違う「より視野を広げ，新しい知識や考え方に出会うワクワク感」を大学に求めているので内容のさらなる充実が必要である。
・教養科目は４年間継続でレベルアップする内容とすることにより，学習意欲の維持につなげ,学年進行とともに今何が必要かを自分で考えて科目を取ることができるため,「ただ単位取得のために授業を履修する」という学生が減り，学習意欲の向上にも繋がることが期待される。そのため，教養科目は低学年に集中させるのではなく，４年間にバランス良く配置するのが良いのではないか。
・ビジネス社会では専門知識の差はつきにくく，教養・やる気・質問力・コミュニケーション力といった「人間性」が重要になる。本日の協議会開催前に行われた施設見学内にあった建築学科のオープンスペースでの授業は，自由に発言・議論できる場となっており，質問力・発言力・チームワークを育む授業として魅力的に感じた。今後はより広く対話的な授業を低学年から導入されることを期待する。
・技術者は海外での仕事も多いため，英語教育に力を入れるべきである。英会話は期間を空けると忘れてしまうため，在学中は一貫してネイティブな会話ができる教育が必要である。
・ＡＩの対応については，現状ＡＩは意思や感情がないとされているため，学生には好奇心・興味・意思等を持たせるとともに，全体を知る，社会との連関性や技術間の繋がりを知る等幅広い視野を持つ素養の育成が重要である。その上で，自身が究めたい道に進む際にサポーターであり，パートナーとしてＡＩを活かして専門性の深掘りを行い,「Ｔ型人材」を育成することが望まれる。
・生成ＡＩは世界でもルールが固まっておらず，著作権やビジネス倫理等多角的な問題を引き起こす可能性もある。しかしながら，生成ＡＩは今後うまく付き合っていく必要があるため，どのように使用していくかを前提とした教育（「正しいＡＩの使い方」「高い文章作成能力を持つＡＩ活用方法」等）が必要。そのため，同教育は低年次の教養科目で終わりにせず，学年進行後も専門科目の中においても上手く組み込み一貫して教育を行う必要がある。
・大学院教育においても，これまでは専門知識を中心とした内容を行ってきたが，生成ＡＩ等が発達して，現在社会の取り巻く状況も日々変わっており，どのように生成ＡＩを使用するかといった倫理教育やビジネスの視点で考える思考も重要となるため，アントレプレナーシップを育む教育も必要となってくる。本取り組みは大学院生に限らず,学部１年生にとっても早い時期に同要素に触れることは重要なことであるため,任意参加できる環境も検討頂きたい。

＜本学部からの回答＞
・現在，新カリキュラム改定に向けて検討を行っており，今回御意見を頂いた教養科目の配置等については学生視点でより効果的なものとなるよう引き続き検討を行う。
・日本大学では全学部（16 学部・短期大学部）の１年生（約 16,000 名）が混在してグループワークを行う「日本大学ワールドカフェ」を実施しており,学部の枠を超えた交流を通じて多様な価値観･考え方に触れることで,学びへのモチベーションが高まる等の効果が出ている。なお,本学部では「Funa―Mix」と称して,「理工学部・薬学部・短期大学部（船橋校舎)」と連携して「日本大学ワールドカフェ」と同様の他学部との交流活動を独自に取り組んでいる。
・理工系の分野において，英語力は高い専門性を発揮する重要な能力として認識しており，学習成果をはかる指標の１つとして TOEIC を導入している。１年次は全員が，２年次以上は対象科目の受講者が各学期の終わりに TOEIC L&R IP テストを本学部の費用負担で受験している。その他にも，習熟度別クラス編成，パワーアップセンターでの外国人講師による英会話サロン「English Lounge」の開設，コンピュータを使用した CALL システム（語学学習支援システム）を利用した授業等，英語学習の環境を整えている。今後はより充実した内容の検討を行うとともに，個々の学生に合ったプログラムを適切に周知して一人一人の英語力の向上につなげていくよう努める。
・ＡＩに対する現在の取り組みとしては,令和７年度に文部科学省から認定された「数理・データサイエンス・ＡＩプログラム(応用基礎レベル)」を軸にリベラルアーツ・情報系科目の拡充を図る検討を行っている。
・生成ＡＩに質問を行えばすぐに答えは出るが，その答えを活かして何をしようとするのか，新しいものをどう生み出すのかが重要となる。今後は生成ＡＩとうまく付き合えないと専門家になれない時代であり，ＡＩの答えの論理を自分で答えられる教育を行う必要がある。入学者選抜時の時点から，小論文等において生成ＡＩを導入した試験の可能性も検討する必要がある。
・来年度から大学院では，科学・技術の進歩，時代の変化に対応できる大学院を目標に掲げて，現在また将来の社会が必要とする豊かな人間力をもった優秀な科学者・技術者を輩出するため，博士前期課程の共通科目として，英語科目及びアントレプレナーシップ科目を設置する予定である。アントレプレナーシップ科目では，ベンチャーキャピタリストやスタートアップ関係者の方から講演を聞く機会の提供を予定している。

【学生の受け入れ】
＜外部評価者から意見・要望事項＞
・高等学校への出張講義を行う際は，どうしても経済・経営系学部は高校生から見るとわかりやすく，楽しい印象を受けやすいので，理工学の楽しさやワクワク感を伝えることに力を入れることも検討いただきたい。
・学生の成績はばらつきがあり,実習の授業を行った際に一人では危険なところもあり,その対応として教員が一緒に行う等負担が掛かるとともに，その学生にとってもミスマッチを起こしている可能性もある。ミスマッチを防ぐ策として，入学者選抜方法の見直し等の検討も必要である。
・社会人大学院生は企業から派遣されるケースが多く，入学する目的は修了を目指すだけでなく,様々な分野の方との新しい人脈（学生間･研究者等）を作れることであり,将来的に大きな価値となる側面がある。特に日本大学は多くの卒業生・修了生を輩出しており，社会との強い関係性があるという強みを活かし，博士後期課程に進学する価値をＰＲしていくのが良いのではないか。
＜本学部からの回答＞
・本学部では高等学校から出張講義の申込があった際は，要望等をお伺いして内容を調整の上，出張講義を実施している。今後はより一層，高校生に理工学の楽しさを感じ

てもらい理工系に興味を持つ層を広げていく取り組みを行っていきたい。
・一般選抜で入学した学生の中には学力が高くても必ずしも学ぶ意欲が高くない学生もいる等，入学者選抜と学生の意欲を相関させることは難しい。入学者選抜方法の検討を引き続き行うとともに，入学時のモチベーションが高くない学生には授業・課外活動等を通して，ワクワク感を感じてもらえるよう様々な側面から促すよう努める。
・社会人大学院生は，本学部と企業との関係強化にも繋げることができ，共同研究やインターンシップの受け入れ先にもなる等，好循環を生む。現在，本学部では「社会人大学院生への誘い」というリーフレットを作成し，企業が訪問した際に必要に応じて配布するとともに，卒業生が参加するホームカミングデーでも配布を行った。また，今後は本学部内で実施している大学院進学説明会等において，今後は社会人大学院生の話を盛り込むとともに，ビジネス社会における博士の価値等をより具体的に伝えられるよう検討したい。

【学生支援】
＜外部評価者から意見・要望事項＞
・講義形式の授業のみでは育むのが難しいコミュニケーション能力・チャレンジ精神等は課外活動を通して得られることが多いため，今後も未来博士工房（人工衛星や次世代ロボット，レーシングカーの製作，コンピュータや物理・電気に関する実験，地域のまちづくりへの参画等学生が自主的にプロジェクトに取り組めるものづくり空間）コンテスト，サークル等，授業以外で学生が自ら能動的に働きかけみんなで協働してチャレンジする仕組みづくりを充実させることが大事である。
・就職指導課は教職志望であっても，企業の面接対策等の支援が十分に受けられる体制が整えられている。今後は面接の予約がより取りやすくなるよう面接ブースの増設検討や，学生への支援体制のさらなる周知が望まれる。
＜本学部からの回答＞
・本学部では，学生に長期インターンシップやボランティア，留学等の課外活動の時間等を与え，教員には研究活動や国際会議への参加時間を確保すべく令和８年度から100 分授業(半期:15 週→13.5 週)を開始するとともに，積極的にオンラインを活用した授業を行う。これらにより，研究活動，未来博士工房活動，ボランティア等により時間を費やせると考えている。特に未来博士工房は，企業や自治体等と連携したプロジェクトも多く，プロジェクトがそのまま地域貢献につながる例や特許取得，企業との共同研究に発展する例もあるので，本取り組みを継続して授業のみでは身につけることができない協働力等の涵養につなげる。
・就職指導課にはキャリアカウンセラーを配置し，進路選択や就職への具体的な個別指導等を行っている結果，安定した高い就職率と国家公務員総合職合格者数でも一定の成果等を上げており，学生の能力を引き出し将来の進路決定に資するキャリア形成支援となるよう取り組んでいる。

【社会連携・社会貢献】
＜外部評価者から意見・要望事項＞
・船橋市主催のふなっこ未来大学（化学・技術・工学等の理数系分野を中心に，実験などを通して，子どもがワクワクするような体験をより多く提供していくことで,「子どもたちが主体的に考え，学びに向かう力を育み，将来の夢や目標をもち，自己肯定感を高めるきっかけとする」ことを目的に実施する事業）では，理工学部の協力を得て今年度も行われ，船橋市在住の小学生から多くの参加申込があり，好評であった。今後も企画内容や参加定員等の相談をさせて頂きたい。
・公開講座の実施方法は，働き方が多様化している現代社会では好きな場所・時間に受

講できるオンデマンド形式が受講者にとっては効果的であり，受講率も上がる。
＜本学部からの回答＞
・今年度のふなっこ未来大学は,「ロケットラボ 2025～あつまれ未来の科学者たち！～」「未来探査ロボット作成キャンプ～きみのロボが未来を走る～」「未来を開く夢の乗り物「宇宙エレベーター」」の３企画を連携して実施させて頂いたが，来年度も内容等を調整の上，引き続き参加させて頂きたい。
・本学部で実施している公開講座は，対面形式・オンライン形式が中心である。講座内容や著作権の問題等もあるが，今後はオンデマンド形式での実施も視野に入れて広く公開講座を行っていく。

角田事務局長から，本協議会でいただいた御意見及び外部評価者の皆様から御提出いただいた評価結果を踏まえ，今後本学部の教育活動の向上・改善に向けて取り組んでいくことを申し上げ，閉会となった。

以　　上

資料３

令和６年度日本大学理工学部における教育活動に関する
外部評価結果への対応状況

【改善が期待される事項】

	基準	外部評価者からの改善意見等	本学部回答（対応状況等）	所管部署
1	基準４ 教育・学習 ＜理工学部＞	補充教育等の学習支援を行うパワーアップセンターは教育のフォロー体制として素晴らしい制度と評価できる。今後はより一層受講が必要と思われる学生に有効活用されるために運用及び周知方法の改善が重要である。	周知方法として，学内ポータルによる情報発信のほか，掲示板やエレベーター前などに時間割等の掲示を行っている。また，学部１年生は，４月に実施する「学力調査」の結果に基づき，所定の点数に満たない学生をパワーアップセンター利用推奨者として位置づけ，各学科の教員から利用を促す取り組みを行っている。 今後も利用状況の検証を行い，より有効に機能するよう務める。	教務課
2	基準４ 教育・学習 ＜理工学部＞	教養教育科目「多文化と社会の理解」に関しては，多文化の部分が外国語科目のみであり，多文化の理解としては浅い部分があるのでより深い内容になることが望ましい。	令和９年度にカリキュラム改正を予定しているため，教養教育科目の各科目群の構成を含めて，包括的に検討を行う。	教務課

	基準	外部評価者からの改善意見等	本学部回答（対応状況等）	所管部署
3	基準５ 学生の受け入れ ＜理工学部＞	外国人留学生の受け入れについては，より積極的に取り組むとするなら指導態勢・支援体制のより一層の強化（学内だけではなく，地域の国際交流協会やＮＰＯなどと連携してサポート等）を図る必要があると思われる。	外国人留学生の支援体制の更なる充実にあたっては，ニーズを検証した上で，地域の国際交流協会や NPO 等との連携についても視野に入れて充実した体制となるよう検討を進めていきたい。	学生課
4	基準５ 学生の受け入れ ＜大学院理工学研究科＞	大学院博士後期課程の定員未充足は各大学でも課題となっているが，定員充足に向けた取組としては，まずは学部生の時から大学院への進学の意味やメリット等を学内でアプローチすることが重要ではないか。その上で，学外から志願者を確保することになるが，大学院入試情報がホームページ上で探しにくく，学外からの募集に積極的とは感じられないため，改善が望まれる。また，社会人の受け入れに力を注ぐとのことであれば，しっかりと現状を把握して，企業などと連携することも模索しながら，より積極的な働きかけを行うことが望まれる。	学部生に対するアプローチとしては，平成３０年度から大学院進学説明会を開催し，以降も継続して年に２回，在学生及び OB・OG による講演会形式で開催している。また，大学院情報サイトを開設し在学生に向けて情報を発信している。 ホームページについては，学部・大学院を一体的にリニューアルする検討を行っており，令和８年４月に公開予定である。 就職指導課と連携を図り，企業が訪問した際に必要に応じてリーフレット（社会人大学院への誘い）を配付してもらうこととしている。また，今年度から卒業生が参加するホームカミングデーにて，社会人大学院に関する案内を配布した。	教務課

	基準	外部評価者からの改善意見等	本学部回答（対応状況等）	所管部署
5	基準５ 学生の受け入れ ＜大学院理工学研究科＞	社会人の大学院生など，特徴ある学生の受け入れを実現していることをアピールすることが望まれる。	社会人大学院向けのリーフレットの作成（隔年）及びホームページに社会人ページを設けているが，今後はより一層充実した内容となるよう検討を進めていく。	教務課
6	基準７ 学生支援 ＜理工学部・大学院理工学研究科＞	カウンセリングを希望する学生に対して，カウンセリングの機会を提供することは大切な取組となるため，場所の確保が課題となっているようであれば，学内の固定的な場所の確保に加え，学外施設等を活用して，時間・場所・機会の充実に努めていただきたい。	都市型キャンパスである駿河台校舎においては，対応場所の確保が課題となっているが，希望時間にカウンセリング受診ができなかった学生に対しては，日時の調整の他，大学本部（市ケ谷）の学生支援センターを紹介するなどの対応を行い，機会を逸しないよう配慮して運用している。	学生課
7	基準７ 学生支援 ＜理工学部＞	理系大学の女性比率の低さは大きな課題であり，日本社会には女性発想のイノベーションも必要と感じる。そこで，理工学部としての数値/期日目標の設定を行う必要があるのではないか。	本学部においても，女性比率の低さが重要な課題であることは十分に認識している。女性の発想や多様な視点を取り入れたイノベーションの必要性についても理解しており，その実現に向けた対策を進めているところである。数値目標や期日目標の設定については，拙速に数値のみを掲げるのではなく，女子学生が安心して学び，将来のキャリア形成を具体的に構想し，魅力ある進路として主体的に選択できるような実効性	庶務課

	基準	外部評価者からの改善意見等	本学部回答（対応状況等）	所管部署
			のある施策を伴うことが不可欠である。したがって，まずは現状の把握と既存施策の効果測定を行い，その上で学部として現実的かつ持続可能な目標を検討することが求められる。このような認識のもと，理工学部では女子学生の就職状況紹介講演，女子高校生向けセミナー，企業連携による体験型プログラムなどを開催している。さらに，日本大学全体としても，女性の生理用ナプキンの無料配布を開始するなど，環境整備を進めている。これらの体制整備により，今後の取り組みが功を奏することが期待される。理工学部としては，既存プログラムの継続と拡充を図るとともに，その効果を踏まえて数値目標の設定についても検討を行う。	
8	基準７ 学生支援 ＜理工学部＞	日本大学は不祥事等があり，学生や保護者はそれらにより学生生活に影響を及ぼすのではないかと不安に感じるため，理工学部の対応や教育研究活動等を積極的に社会へ公表し，安心させることが大事ではないか。	ホームページのトップページ上に，在学生が学生生活の中で大学に対して日々感じていることを学部長へ直接意見や要望を伝える「学部長への意見フォーム」を設置している。寄せられた意見は所管部署と検討の上，改善・向上につなげている。 また，社会に対しては，ホームページ及びＳＮＳを日々積極的に更新し，本学部のイベント開催報告，学生の表彰，教員の研究成果等を発信している。	庶務課

	基準	外部評価者からの改善意見等	本学部回答（対応状況等）	所管部署
			今後もホームページのリニューアル・情報発信を通して本学部の取組を社会へ広く発信できるよう努める。	

令和６年度日本大学理工学部における教育活動に関する
外部評価結果への対応状況

【さらなる向上が期待される事項】

	基準	外部評価者からの改善意見等	本学部回答（対応状況等）	所管部署
1	基準４ 教育・学習 ＜理工学部＞	各学科それぞれで実施されている ICT 教育については，基本ソフトの教育，プログラミングの基礎，生成 AI の取り扱い方など共通の部分も多いと考えられるので，学部全体で俯瞰的に整理して一般教養教育とも連携してカリキュラム編成等が進められることが望ましい。	令和７年度から，情報リテラシーやデータサイエンスに係る知識・技能，態度，習慣を涵養し，文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プラグラム認定制度（リテラシーレベル）」の申請に資する科目として「データサイエンスの世界」を全学科の学生が履修可能な教養教育科目に設置した。	教務課
2	基準４ 教育・学習 ＜理工学部＞	大学としての自由さや学生が自ら考え行動する力を削いでいるのではないかと感じるプログラムや単位修得制限などが見受けられ，見直しが図られても良いのではないか。	令和６年度に受審した公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）結果において，改善課題として，１年間に履修登録できる単位数について，単位制度の趣旨に照らした改善（単位の実質化を図るため，１年間に履修登録できる単位数の上限を定めているものの，教職課程科目や資格取得のための科目を除外科目としており，当該科目を履修する学生の履修登録単位数が多くなっている。これらの学生に対して，ガイダンスでの履修指導などを行っているものの，単位の実質化を図る措置としては不十分であるため，単位制度の趣旨に照らして改善）が求められており，同協会の考え方としては，反対に単位修得制限を設ける傾向である。 このため，令和８年度に履修登録可能な単位数の上限について改善案を策定し，令和９年度より運用を開始する予定である。	教務課

	基準	外部評価者からの改善意見等	本学部回答（対応状況等）	所管部署
3	基準４ 教育・学習 ＜理工学部＞	日本大学教育憲章の「『自主創造』の３つの構成要素及びその能力」内に定める「世界の現状を理解し説明する力」というのは目標としては低いのではないか。社会では，英語力や世界基準の思考力が求められるので，TOEIC の点数を卒業基準に追加，交換留学制度の積極的な活用等も検討する必要があるのではないか。	学部１年生は必修の英語科目，学部２年生は選択の英語科目において，学部負担で履修者全員が TOEIC を団体受検し，その結果を成績の 20%に反映している。また，TOEIC を含む英語能力試験において，所定の認定条件を満たした場合は，英語科目の単位認定を受けることが可能。しかし，交換留学制度は，制度の規模や成果検証について根本的な見直しが必要と考えており，今後包括的に検討を行う。	教務課
4	基準４ 教育・学習 ＜理工学部＞	成績評価基準は絶対評価となっているが，成績は厳格に評価するという点で大切なため，一定の基準で成績を区切る相対評価があっても良いのではないか。	ＧＰＡによる成績評価の方法を採用している。科目ごとに絶対評価，相対評価，あるいはそれらを組み合わせた複合的な評価方法が用いられており，評価基準は統一されていないのが現状である。 しかしながら，ご指摘のとおり，成績は厳格に評価されるべきであると認識のもと，今後，成績評価分布の公表を含め，成績評価に関する組織的な点検及び改善の可能性を視野に入れ，検討を図っていく。	教務課
5	基準５ 学生の受け入れ ＜理工学部＞	入学志願者について，１８歳人口は１８年前に予測でき，今後も減少が見込まれていることから，一定の入学試験合格者倍率を保つ，あるいは向上させて理工学部のレベルを高めるために，学部学科の統廃合も含めて検討し間口を狭めるか，外国人留学生等の入学を促進するか等を検討する必要がある。	長期的には，募集定員の削減などを含む大学の質的な維持・向上のため，学科の再編や募集定員の削減といった「間口を狭める」方向性の検討が必要である。 一方，当面は，入試方式の多様化や早期化（総合型選抜，推薦入試，大学入学共通テスト利用など）によって入学者の確保に努めること，国公立併願型の入試方式を導入することによって優秀層の取り込みを図ることや，日本語教育や生活支援体制の強化を通じて定着率の向上を目指し，外国人留学生の受け入れ	教務課

	基準	外部評価者からの改善意見等	本学部回答（対応状況等）	所管部署
			を積極的に推進すること，女子枠の導入などにより女子学生の理系進学を促進することなどの方策を着実に実施する必要がある。これらの取り組みを通じて，教育研究の質を高め，学生一人ひとりへのきめ細かな対応を強化し，「選ばれる大学」を目指している。	
6	基準５ 学生の受け入れ ＜理工学部＞	大学入学後は，学力よりもやる気のある学生が伸びる傾向を感じており，その「やる気」が測れる入学者選抜が実現できると良いのではないか。	令和３年度入試より「総合型選抜」を導入している。この入学試験では，特定の教科の問題を短時間で行う一般的な学力試験では測りきれない，受験生の持つ学力の３要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を理工学部の１４学科のアドミッションポリシーに基づいた事前課題に対する質疑応答やプレゼンテーションなどを通して，多面的・総合的に評価する入学試験を実施している。	教務課

	基準	外部評価者からの改善意見等	本学部回答（対応状況等）	所管部署
7	基準７ 学生支援 ＜理工学部･大学院理工学研究科＞	経済的支援については，理工学部でも経済的な理由で就学に支障が生じた際の支援等安心できる取組を行っているが，日本は相対的にどんどん貧しくなっており，学びたい者が学べない，アルバイトをしなければならないという状況は非常に問題だと感じている。経済的支援は本来，国の仕事と考えられるが，将来理工学部を卒業して社会に貢献・活躍できる若い人たちに理工学部の取組を浸透させるためにどのように周知するかがすごく重要となるため，引き続き検討を行っていただきたい。	経済的支援に関しては，近年，父母の関心も高く，重要度を増していると認識している。そのため，ガイドブックやホームページなどの充実化や，オープンキャンパスなどでは相談コーナーを設け，制度の周知及び相談対応を図っている。	学生課
8	基準７ 学生支援 ＜理工学部･大学院理工学研究科＞	社会人学生や留学生に対する支援に関しては学科を超えた取り組みとしてより充実されることが望ましい。	社会人学生や留学生に対する支援については，対象学生のニーズの把握に努め，適切な体制を整えていくよう今後検討を図る。	学生課
9	基準７ 学生支援 ＜理工学部＞	交換留学制度は良い制度だが，学部全体で２名は少なく，交換留学の成果が教育研究の観点から不明だったため，今後成果等を十分に検討する必要があるのではないか。	本学部では，アジア・欧州の４か国５大学（中国：西安建築科技大学・西安理工大学，韓国：韓国海洋大学校，フィリピン：フィリピン工科大学，ドイツ：ダルムシュタット工科大学）と学術文化交流のための覚書を結んでいる。なお，令和６年度は交換留学生を韓国へ１名派遣及びドイツより１名受入している。（令和５年度は派遣及び受入ともに０名） 本学部においても交換留学制度については，制度設計が十分とは言えない状況と認識しており，制度の	教務課 研究事務課

	基準	外部評価者からの改善意見等	本学部回答（対応状況等）	所管部署
			規模や成果検証について根本的な見直しも見据えて，今後包括的に検討を行う。	
10	基準７ 学生支援 ＜理工学部＞	バリアフリー，ダイバーシティに対応できていない施設や，自習スペースが限られている印象が見受けられるので，今後計画的に施設が整備されることが望まれる。	本学部には築年数の経過した校舎も多く残っているが，学生ファーストの考え方を基本に，限られた予算の中で改修計画を策定して段階的に施設整備を実施。具体的には，トイレの洋便器化工事や自動ドア化工事，内部階段の手摺設置等を進め，バリアフリーや安全性の向上を図った。また，自習スペースの不足に関しては，図書館や駿河台校舎１号館ＣＳＴギャラリーを学生に開放するなど，限られたスペースの中で学習環境の改善に努めている。 今後も，施設利用状況や学生ニーズを把握しつつ，計画的にバリアフリー改修や学習環境整備を推進に努める。	管財課 学生課
11	基準７ 学生支援 ＜理工学部＞	卒業生と学生の交流は学生の刺激と将来の方向性を考える良い機会になるので，学部として学外向け講演会やセミナーの活発化とＰＲを行っていくことが望まれる。	学生の就職支援活動の一環として，卒業生が在籍する企業を招いた学内合同企業説明会や個別の企業説明を開催し，学生が参加し卒業生と直接やり取りをすることで，業界研究や将来について考える機会を日本大学校友会等も連携を図り提供している。 このように，卒業生と学生の交流は活発に行われているが，開催報告等は行えていないため，ＰＲにつなげられるよう発信を行う。	就職指導課 庶務課

	基準	外部評価者からの改善意見等	本学部回答（対応状況等）	所管部署
12	基準９ 社会連携･社会貢献 ＜理工学部＞	「社会との連携」は多数の卒業生が社会で活躍している理工学部の特徴を活かせる分野であるので，さらに理工学部全体として体系的にアピールすることが望ましい。	卒業生が会員となっている理工学部校友会とは常に連携を取り，講演会や就職支援，奨学金，ホームカミングデーなど，卒業生が理工学部に関わる機会は多い。 また，卒業生の活躍を示したインタビューはホームページ（動画）やガイドブック（記事）に掲載を行っている。 今後は地域連携推進委員会及び広報委員会を中心に，体系的にアピールする方法について検討し，実施に向けて検討を行っていく。	庶務課
13	基準９ 社会連携･社会貢献 ＜理工学部＞	様々な取り組みを実施しているにも関わらず，メディアへの露出が少ない印象があるため，広報誌での発信やメディアへの情報提供に積極的に取り組んでいただきたい。	現在，様々な取組を Web 上でわかりやすくステークホルダーに訴求するために，2026 年 4 月公開予定で HP のリニューアルを進めている。あわせて，高校向けに実施している出張講義の Web サイトもリニューアルすることから，広報的な発信とは別に，近県以外の高校を対象にオンライン方式での出張講義の増加を目指し，理工学部の取り組みを紹介していくことで，本学部の教育研究についてより広く社会へ発信を行う。 さらに，SNS（X・Instagram）では情報を日々更新し，そのアクセス数は増加している。 引き続き，ホームページのリニューアル及びプレスリリース等も積極的に行い情報発信の強化に努めたい。	庶務課

	基準	外部評価者からの改善意見等	本学部回答（対応状況等）	所管部署
14	基準９ 社会連携･社会貢献 ＜理工学部＞	日本大学の技術士取得力は高く，そのような教育力をアピールするとともに，社会貢献としてより一層生かしていただきたい。	桜門技術士会や桜師会等の校友組織との連携（イベント開催等）をこれまで以上に強化することで，卒業生を通じて本学の教育力を広く発信するとともに社会貢献に繋がるように努める。	就職指導課
15	基準９ 社会連携･社会貢献 ＜理工学部＞	社会貢献活動へ参加する学生に対する動機づけとして表彰等を与える制度を検討してはどうか。	現在の取組としては，社会の模範となる行為が認められた者については，学長賞，学部長賞等の表彰を行い，その奨励を行っている。	学生課